

講演

歯科医学教育の国際化

鶴田 潤

ICDフェロー

●抄 録●

SNSやメディアの活用により、世界を飛び交う情報はボーダーレスとなり、外国のある町で起きた事件が国内の重大ニュースと並んで紹介されたり、海外の同僚との会議や講演会にオンラインで出席できる時代となり、“昔の時代”を知る世代としては、生活の中での「国際」の概念が変化してきていると感じます。連綿と続く時の流れの中での変化は実感としてとらえづらく、言葉としても表しづらいものです。日本、東京など、生活の場や文化圏が同じだとしても、個々人の国際に対する考え方、価値観はより一層多様化し、現在はそれを前提とした議論が必要な時代となったものと思います。このような状況で、歯科医師を養成するための教育である歯科医学教育に関連するところでは、世界各国の大学や管理団体の間で、国境を越えたりアルな歯科学学生・歯科医師の移動に関連する取り組みが進められてきています。歯科医業を行うためには、いずれの国でも管理団体への登録が必要なため、海外で歯科医師として働く場合は、その国の大学で学び就労条件を整えることが一般的と思いますが、免許取得をした国以外で働く場合には、その歯科医師が登録条件に資するかどうか重要となります。その際には、卒業した大学の教育プログラムやその国の継続専門研修制度が扱われることがあります。国際を考えることは、第3者的な視点で国内を理解することにもつながります。今回の講演では、歯科医学教育の国際化について、それが導く可能性や課題、また、歯科医師不足が将来の課題として囁かれる今の日本でこの話題を深掘りすることの意義など、国際歯科学士日本部会であるからこそその内容をお話ししたいと思います。

キーワード：歯科医学教育、継続専門研修、相互認証

「歯学教育の国際化」に限らず、「国際」という言葉自体は日常の非常に多くの場面で使われているが、それ自体が何を表しているのかを考えてみる。「外国」・「海外」・「国際」と並べれば、その違いに気づくところではあるが、「～化」としてみると、「国際化」は「人・もの・金・情報」が国境を越えて行き来し、互

いに影響を及ぼしあう国と国の関係を示す状況となる。バーチャルな世界で繰り広げられる「情報」は、テレビニュース・番組、動画配信サイトでは海外情報が溢れ、国内外の区別すらつけづらい状況であり、それが日常である。一方で、「人」は実社会でリアルな生活を営んでいることから、国境を超えた移動については、国の法律や制度が大きく関わってくる。

「歯科医学教育」は、卒前教育だけではなく、歯科医師が歯科医学を継続して学ぶ「継続専門研修」(CPD: Continuing Professional Development)、専門分野を修得する「専門医制度」など、免許取得した後も行うべき教育を含むものであり、社会に対する歯科医師の質管理を示す制度でもある。「歯科医学教

※冬期学会講師

(つるた・じゅん)

東京科学大学 ヘルスケア教育機構



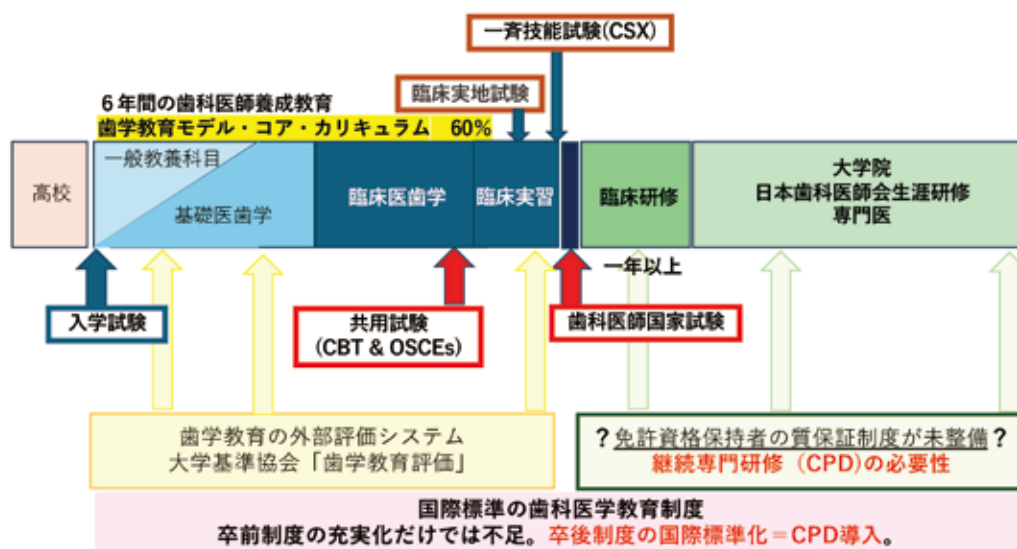


図1 日本の歯科医学教育制度

Fig. 1 Dental Education system in Japan

育の国際化」と国際化と組み合わせてみれば、歯科医師の質保証制度の国同士のあり方を整えることも言える。外国人の移住・就労については、各個人の考えがあるところであるが、世界における人的移動を日本だけが無視することはできず、能動的あるいは消極的としても、議論の土俵に登るべきものとする。その観点では、これまでの歯科界における国際化の議論は「目的」ではなく「目標」（留学生政策、教育制度の国際標準化）を追い続けてきており、改めて、国際化の「目的」を見つめ直すべきとも考える。

EU加盟国（EEA地域）における歯科医師資格の相互認証¹⁾については今般広く知られるところとなっているが、ASEAN加盟国地域での同様の取り組み計画²⁾、あるいは、カナダと米国・オーストラリア・ニュージーランド・アイルランドの関係³⁾のように、国同士における卒前教育プログラム相互認定制度などが存在し、次世代の歯科医師の国境を越えた移動の基盤を築いている。日本においては、近隣諸国・地域である中国、韓国、台湾などからの歯学部・大学院への留学生、歯科医師の移動がある状況ではあるが、それが「歯科医学教育の国際化」の文脈で議論されることはほとんどない。歯科医学教育においては、近年、歯学教育評価制度⁴⁾が導入され、卒前教育の国際レベルでの質保証の動きが始まっている。一方で、卒後に

いては未だ「歯科医師」の質保証制度は導入されておらず、今後は、歯科医師免許保持者の質保証を行うための義務的継続専門研修のあり方を検討するべきであるとする（図1）。これからの日本の歯科医療を創る上で、歯科医師数の偏在問題、次世代のグローバルゼーションへの対応策として、外国で歯学を学んだ歯科医師、日本で歯学を学ぶ外国人留学生の役割の検討を行い、国際標準での卒前・卒後教育制度を確立することが必要である。ICD発信で、ぜひとも、この「国際活動」を推進していただきたい。

参考文献

- 1) European Commission, Recognition of professional qualifications in practice, https://single-market-economy.ec.europa.eu/single-market/services/free-movement-professionals/recognition-professional-qualifications-practice_en
- 2) ASEAN Healthcare Services, ASEAN MRA ON DENTAL PRACTITIONERS, https://aseanhealthcare.org/asean_mra/index/2
- 3) Commission on Dental Accreditation of Canada, Internationally Educated Professionals, <https://www.cdac-cadc.ca/international/internationally-educated-professionals/>
- 4) 大学基準協会, 歯学教育評価, <https://www.juaa.or.jp/accreditation/field/standard/>

(2026年4月30日アクセス)

Internationalization of Dental Education

Jun TSURUTA, D.D.S., F.I.C.D.

Center for Healthcare Education, Institute of Science Tokyo

Through the utilization of social media and other media platforms, information circulating around the world has become borderless. We now live in an era where an incident occurring in a foreign town can be reported alongside a major domestic news story, and where we can attend meetings or lectures with overseas colleagues online. As a member of a previous generation, I feel that the notion of 'international' in everyday life is changing. Such changes, occurring within the continuous flow and passage of time, are difficult to grasp as tangible experiences and are hard to express in words. Even within the shared living environment and cultural sphere of places like Japan or Tokyo, individual perspectives and values regarding international matters have become increasingly diverse; I believe we have now entered an era where discussions must be conducted on this basis. Within this context, in the field of dental education—which trains dentists—initiatives are being advanced among universities and regulatory bodies worldwide to facilitate the real-world movement of dental students and dentists across national borders. As registration with a regulatory body is required to practice dentistry in any country, it is generally the case that those wishing to work as dentists abroad study at a university in that country and fulfil the necessary employment requirements. However, when working outside the country where one obtained their license, it is crucial to determine whether the dentist in that country meets the registration criteria. In such cases, the educational programme of the university from which they graduated, and that country's Continuing Professional Development system may be considered. Considering the international context also leads to a better understanding of one's own country from a third-party perspective. In this lecture, I would like to discuss the internationalization of dental education, the possibilities and challenges it presents, and the significance of delving deeper into this topic in Japan today, where a shortage of dentists is increasingly being cited as a future challenge. I will present content that is unique to the Japanese Section of the International College of Dentist.

Key words : Dental education, CPD, License